

始めませんか？ 無理なく 備蓄！

物資が不足した最近の事例 ～壬生町から物資が無くなった日を忘れないで！～

平成23年東日本大震災・・・町内スーパーでは品薄が続き、ガソリンスタンドには給油待ちの車が並ぶなどの混乱がありました。

令和元年東日本台風・・・H27関東東北豪雨を契機に、毎年の様に襲ってくる台風の影響で、台風直前にカップ麺や菓子パン等が売り切れる事態になりました。

新型コロナウイルス・・・普段と同じ消費をしていれば、不足することの無かったマスクや消毒液、トイレットペーパーやティッシュペーパー等が、SNS等における根拠のないデマが全国的に広がり、需要が増大し、手に入りにくい状況になりました。また、在宅する方が増え、カップ麺やレトルト食品も品薄になりました。

今こそ再確認すべき、『自助・共助・公助』の原則

自助・共助・公助とは、

自助(自分の身は自分で守る。自分で準備できるものは準備する。)

共助(お互いに助け合い、災害リスクを減らす)

公助(自助・共助の支援や、いち早い復興を目指す)

の原則のもと、各家庭における防災意識の向上や備蓄をお願いしているところです。

町としても災害協定や備蓄品の整備を進めておりますが、約4万人の住民の方の食糧と日用品等を十分に確保するとなると整備するにあたり、購入費用はもちろん、保管場所の確保や在庫維持管理にも膨大な費用と作業時間が伴います。

もちろん、町が、県が、国が災害時に何もしない、用意しないというわけではありません。

しかしながら、全てを公的な援助で賄うには膨大な時間と費用が必要であり、災害やウイルスの蔓延といった事態においては皆様一人一人の意識が大変重要であることをご理解いただければと考えております。

自助・共助には様々ありますが、今回はその中でも、食料や日用品の備蓄の方法について、次のとおり、お伝えさせていただきます。